

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書
--------------------------

◎取組分野：【交流】【食】

1. 都道府県、市町村	熊本県水俣市 <sup>みなまし</sup>
2. 団体名	村丸ごと生活博物館 <sup>かぐめいし</sup> 頭石地区
3. 取組みの名称	村丸ごと生活博物館
4. 取組概要等	

## ◇概要

水俣市では、農山漁村地域に対し、住む人々と地域が元気になる生活の支援を行おうと平成13年9月21日に「水俣市元気村づくり条例」を制定した。この条例に基づき地域の自然・産業・生活文化を守り育てる地区を「村丸ごと生活博物館」として水俣市が指定している。

そのような中、頭石地区では固有の生活文化をさらに磨き後世に残そうと、平成14年8月5日、「村丸ごと生活博物館」の地区指定を受け活動を開始した。

村丸ごと生活博物館頭石地区では、頭石集落に住む人々の中から水俣市に認定された、自らの生活文化に誇りを持って説明し、案内できる「生活学芸員」8名と漬物づくりや石積みなど生活技術の熟練者である「生活職人」16名が元気な村づくりに取り組んでいる。

この取組は「地域にあるものを探す」ことから始め、集落全体を「生活の博物館」と見たて、訪れる人々に普段の生活（地域の案内、食事、各種体験）を提供している。地域の案内は「生活学芸員」、食事は「生活職員」のうち女性が中心となり、仕事と両立させながら地区でそれぞれ役割分担し受け入れている。地元住民の素朴で温かいもてなしと熱意が評価され、全国各地からたくさんの人々が訪れその数は年々増加し、特に修学旅行生の訪問もあり、生きた農村生活を学ぶ場としても注目されている。

地域の案内や食事、各種体験に対する訪問者からの謝礼は、住民にとって楽しみながら活動を継続するための大切な原動力でもある。得た謝礼の一部は共同資金として積み立てることにしており、地区自らが活動資金を作り出している。

また、定期的に集落で話し合いを持ちながら取組みを向上させていく努力を行っている。訪問者が地区内で迷わないための看板設置や、訪問者に感想を記帳してもらったり、グリーン・ツーリズムの先進地等への視察を行い、取組の質の向上につなげている。

## ◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
来客数	90	174	702	399	668
解説	単位：人				

#### ◇活用している地域資源

- ・自然（山、川、棚田など）
- ・生活文化（百姓仕事、水使い、自然神など）

#### ◇地域活性化のポイント

・住民は自身の案内や説明に驚く訪問者の姿を見ることで、これまで「当たり前」だと思っていた地元の生活・文化の厚みにあらためて気づくことができ、自分の地域に自信と誇りが持てるようになってきた。

- ・地元の家庭料理が訪問者においしいと喜ばれることがきっかけで、女性たちで農産加工所「頭石元気村加工所」を立ち上げた。現在は、週1回市内事業所等に弁当を配達している。
- ・人に振る舞うだけであった手作りのかごや自家野菜を販売するようになるなど、ものづくりが少しずつ進んだ。また、地元食材でもてなそうと、野菜づくりの講習会や作付けを増やすなど農業振興への効果も見られる。
- ・地域外の人々が訪れるようになったことで、清掃活動や道端の植栽など集落の景観美化が進んでいる。

#### ◇事業の今後の展開方向

地域住民にとっては足もとにあり「当たり前」と思っで見向きもしなかったことが、実は素晴らしいことであるとわかってきた。そのことから、この取組みを充実させていくとともに、農家レストランや足もとにあるものを活かしたものづくりなどを進めていきたい。

